

文学座公演
紀伊國屋書店提携

公演企画書

作=マキノノゾミ
演出=西川信廣

—出演—

今井朋彦
瀬戸口郁
若松泰弘
鈴木弘秋
佐川和正
西岡野人
後田真欧

富沢亜古
藤崎あかね
松岡依都美
永川友里
千田美智子

—スタッフ—

美術=奥村泰彦
照明=塚本悟
音楽=上田亨
音響効果=中嶋直勝
衣裳=前田文子
舞台監督=寺田修
演出助手=北則昭
制作=白田聡
票券=松田みず穂

再びこの地を踏まず

— 異説・野口英世物語 —

日本人なら誰もが知る偉人の中の偉人、野口英世。
しかし、彼の本当の素顔はあまり知られていない…。

マキノノゾミが“人間”野口に光を当て、彼が駆け抜けた怒涛の後半生を描く。
「殿様と私」の作・演出コンビがこの秋復活する！

【野口英世】

西暦	年齢	事柄	— 本作での場面設定 —
1876		11月9日福島県猪苗代町三城湯で生まれる	
1878	1	4月末、いろりに落ちて大火傷を負う	
1892	15	友人たちの寄付金により、会津会陽医院の渡部鼎ドクトルに左手の手術を受ける	
1893	16	猪苗代高等小学校卒業・会津若松にある 会津会陽医院に薬学生として入門	
1896	19	上京・医術開業前期試験に合格 血脇守之助のいる高山歯科医学院の学僕となる	
1897	20	医術開業後期試験に合格・高山医学院講師となり、その後順天堂医院に勤務	
1898	21	北里柴三郎のいる伝染病研究所に勤務 英世と改名	第一幕 一場 東京芝伊皿子の高山歯科医学院の応接室
1899	22	フレクスナー博士の来日中、案内役をする 横浜の開港検疫所医官を命じられ、ペスト患者を発見 牛荘に行き、国際予防委員会中央医院に勤務	第一幕 二場 東京本郷湯島の下宿屋
1900	23	帰国、そして渡米、ペンシルベニア大学のフレクスナー博士を訪ねる	第一幕 三場 東京神田三崎町 血脇守之助の家
1901	24	アカデミー・オブ・サイエンスで毒蛇の研究を発表	
1903	26	カーネギー大学研究助手となりデンマークに留学、マドセン博士に師事	
1904	27	ニューヨークのロックフェラー研究所の一等助手となる	
1907	30	ペンシルベニア大学のマスターオサイエンスの名誉学 位を受ける ロックフェラー研究所の準正員となる	
1909	32	ロックフェラー研究所の副正員となる	
1911	34	日本より医学博士の学位を授けられる 梅毒スピロヘータの純粋培養に成功 メリーダージスと結婚	第二幕 一場 ニューヨーク、レキシントン街の小さな食堂
1913	36	ヨーロッパ各地に講演旅行に行く	
1914	37	ロックフェラー研究所正員となる 日本より理学博士の学位を授けられる	
1915	38	日本の帝国学院より恩賜賞を受ける。 一時帰国	第二幕 二場 (1917年) ニューヨーク州、シャンデーケン野口の山荘
1918	41	エクアドルのグアヤキルに黄熱病の研究に行く。病原 体をわずか9日目に発見 母シカ死す	
1919	42	黄熱病研究のためメキシコに行く	
1920	43	黄熱病研究のためペルーに行く	
1921	44	ブラウン大学、エール大学よりドクトル・オブ・サイ エンスの学位を授かる	
1923	46	黄熱病研究のためブラジルに行く	
1926	49	オロヤ熱病原体を発表	
1927	50	トラホーム病原体を発表 アフリカに行く	第二幕 三場 同上
1928	51	ガーナのアクラで黄熱病の研究。皮肉にも博士自身が 黄熱病にかかり逝去	

※上記年表は 会津若松市 web サイトより抜粋



名誉称号授与歴

- 1907年(明治40年) ペンシルベニア大学名誉修士
- 1918年(大正7年) エクアドル陸軍名誉軍医監 名誉大佐、グアヤキル大学名誉教授、キトー大学名誉教授
- 1920年(大正9年) サン・マルコス大学名誉教授 名誉医学博士
- 1921年(大正10年) ブラウン大学名誉理学博士、エール大学名誉理学博士
- 1925年(大正14年) パリ大学名誉医学博士

受賞歴

- 1913年(大正2年) 勲三等(スペイン)、勲三等(デンマーク)
 - 1914年(大正3年) 勲三等(スウェーデン)
 - 1915年(大正4年) 勲四等旭日小綬章
 - 1920年(大正9年) ジョン・スコット・メダル名誉章(フィラデルフィア)
 - 1924年(大正13年) レジオンドヌール勲章(フランス)
 - 1925年(大正14年) 正五位、コーベル賞牌
 - 1928年(昭和3年) 勲二等旭日重光章、防疫功労金牌(フランス)
- ノーベル生理学・医学賞に三度候補として名前があがるが、惜しくも受賞には至っていない。努力の上に努力を重ねることで実績を積み上げていった。天才とも称されるが彼自身「私は少しも恐れるところがない。私はこの世界に、何事かをなさんがために生まれてきたのだ。」と言っている。何事かを成す為には努力を惜しまない“天才”だったのであろう。
本作ではそんな偉人・野口の年表に入ることのない“人間・野口”の部分に光を当てている。

【あらすじ】

舞台は明治 31 年、野口が北里研究所の助手見習い時代から始まる。研究所では雑用しか仕事のない毎日に嫌気がさし始めている野口。一日も早く世界へ出たいという野心を抱いているが、それだけの地位、功績、名声、そして肝心の渡航資金と何一つ持ち合わせていなかった。郷里の親友から借金をしてもすぐに使い果たしてしまうほど金遣いの荒い浪費家であり、さらに上乘せして無心するほどの途方もない借金魔であった野口。医師を志す女学生・斉藤ます子と婚約。その婚約持参金をアメリカ留学の渡航費に当てようとしたが、宴会や芸者遊びで大金を一夜にして使い果たしてしまう。しかし努力家という本来の一面による彼の熱心な勉強ぶりと、誠実さを理解してくれている、恩師血脇守之助はホトホト呆れるも、野口という人間そのものに魅了されている彼は、渡航実現に向けて尽力するのであった。

時は流れて明治 44 年。ニューヨークに新設されたロックフェラー医学研究所に足場を固めていた野口は、ついに病原性梅毒スピロヘータの純粋培養に成功する。そしてひょんなことから知り合ったメリーと結婚。その後も次々と病原体を発見し、地位、功績、名声を確実に手中に収めていく野口。やがてアフリカ黄熱病の病原体研究のために命を懸けてアフリカへと渡ることになる。

【解説】

福島県で生まれた野口英世は、左手に負った火傷にもめげず、生活の苦しい家の手伝いをしながら必死に勉強する熱心な少年であった。その後医学を志し上京…。やがて世界の医学界に於いて次々と自身の研究成果を発表、ノーベル賞候補となるほどの注目を集める存在となる。そして現在、日本国紙幣にその肖像が描かれている。と、ここらへんは誰もが伝記やなかで知っていることであるが…。

医学研究者として日本人なら誰もが知る偉人、野口英世。その輝かしい功績は現代まで語り継がれ世界に名を残している彼だが、途方もない浪費家で借金魔で結婚持参金を使い果たした挙句に婚約破棄するといった一面はあまり知られていない。そんな人間臭い部分に光を当て、マキノゾミが人間野口の怒濤の後半生を描く！

— 演出意図 —

この作品は、野口英世の偉人伝ではない。女遊びが好きで、金銭感覚疎く、友人が工面してくれた大金を豪遊して使ってしまったたり、渡米の資金を得るために婚約して持参金を得ながら、渡米すると、相手方から破談するように画策したりと常識を逸脱したエピソードに事欠かない野口。医療に身を投じた偉人と詐欺師まがいの行為を平気でやってしまう人間・野口英世を突き動かしていたものは何だったのか。「志を得ざれば再び此の地を踏まず」と猪苗代の実家の柱に掘り込んだ言葉や「偉くなるのが敵討だ」と公言する野口の心の奥底に何があったのか。日本が誇る偉人・野口英世に、これまでにない角度から光をあて、新しい形の評伝劇を目指したいと考えている。(西川信廣)

【出演】



今井朋彦



瀬戸口郁



若松泰弘



鈴木弘秋



佐川和正



西岡野人



後田真吹



富沢亜古



藤崎あかね



松岡依都美



永川友里



千田美智子

【作】

マキノノゾミ

1959 年生まれ、静岡県出身。劇作家、脚本家、演出家。
1984 年劇団 M.O.P. 結成、2010 年の解散公演まで主宰を務める。
1994 年、『MOTHER』で第 45 回芸術選奨文部大臣新人賞。
1997 年、『東京原子核クラブ』で第 49 回読売文学賞。
1998 年、『フユヒコ』で第 5 回読売演劇大賞優秀作品賞。
2000 年、『高き彼物』で第 4 回鶴屋南北賞。
2001 年、『黒いハンカチーフ』『赤シャツ』で第 36 回紀伊國屋演劇賞個人賞。同年『怒濤』(作/森本薫)で第 8 回読売演劇大賞・優秀演出家賞/作品賞。
2008 年、『殿様と私』で第 15 回読売演劇大賞優秀作品賞。
2011 年、『ローマの休日』で第 36 回菊田一夫賞演劇賞など受賞。
主な作品に、『ズビズビ』、『阿片と拳銃』、『リボルバー』、新橋演舞場『おはつ』、明治座『晩秋』、赤坂 ACT シアター『十三人の刺客』ほか、作家・演出家として多彩な作品に取り組む。
テレビドラマ『まんてん』(NHK 連続テレビ小説)など。



【演出】

西川信廣

1949 年東京生まれ。文学座附属研究所 16 期/1981 年座員に昇格。
1984 年文学座アトリエの会『クリスタル・クリアー』で文学座初演出。1986 年から 1 年間文化庁在外研修員として渡英。プリストル・オールヴィックやナショナル・シアターでロジャー・リース、ピーター・ホールらの演出助手を務める。帰国後は、劇団公演以外にも、『黒蜥蜴』(明治座)、『マイ・フェア・レディ』(東宝)などの大劇場作品から、『黄昏にロマンス』(可児市文化創造センター)、再演を重ねる『てくれっつのは』(文化座)、『真砂女』(朋友)、『十二人の怒れる男たち』、『音楽劇わが町』(以上俳優座劇場プロデュース)など幅広く活躍。地域演劇にも力を入れており、可児市文化創造センターから『岸田國士小品選』、『エレジー』などを発信。金沢市民芸術村で立ち上げた『おーい幾多郎』も全国で公演された。
1992 年『マイチルドレン! マイアフリカ!』で紀伊國屋演劇賞個人賞、芸術選奨・文部大臣新人賞受賞。1994 年本公演『背信の日々』で読売演劇大賞優秀演出家賞受賞(その後『水面鏡』『寒花』などでも受賞)。最近の劇団公演は『セールスマンの死』、アトリエの会『熱帯のアンナ』、『夏の盛りの蟬のように』。
新国立劇場演劇研修所副所長。東京藝大客員教授。日本劇団協議会会長。日本演出者協会理事。



【公演概要】

東京公演 2015年11月6日(金)～15日(日)

	11/6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
マチネ	/	14:00	14:00	/	★ 14:00	貸切	/	14:00	14:00	14:00
ソウル	○ 19:00	/	/	○ 19:00	/	貸切	19:00		19:00	/

○=夜割

※貸切公演の開演時間は調整中

★=アフタートーク

前売開始 9月26日(土)

東京会場 新宿南口 紀伊國屋サザンシアター

入場料金 一般6,000円
 (全席指定・税込) 夜 割4,000円 (11/6、9)
 夫婦割10,000円※
 ユースチケット3,800円 (25歳以下) ※
 中・高校生2,500円※
 ※=取り扱いは文学座のみ

- 車イスでご来場のお客様は、必ずご観劇前日までに購入席番を文学座までご連絡下さい。
- 未就学児童のご入場はご遠慮下さい。

前売予約 ■文学座チケット専用 0120-481034 (10:00-17:30/日祝除く)
 ■文学座HP <http://www.bungakuza.com/> (Getiiより)
 ■キノチケットカウンター 新宿駅東口 紀伊國屋書店新宿本店 5F (店頭販売のみ 10:00-18:30) ほか

地方公演 2015年11月21日～23日 (可児市文化創造センター)
 11月26日～27日 (兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター)
 11月29日 (長岡リリックホール)

【お問合せ】

文学座 03-3351-7265 (担当:白田聡、松田みず穂)
<http://www.bungakuza.com> email=shirata@bungakuza.com, matsuda@bungakuza.com

再びこの地を踏みます

再びこの地を踏みます

2015年 11月6日(金) ↓ 15日(日)
新宿南口 紀伊國屋サザンシアター



作 ー マキノノゾミ
演出 ー 西川信廣

今井朋彦
瀬戸口郁
若松泰弘
鈴木弘秋
佐川和正
西岡野人
後田真欧
富沢亜古
藤崎あかね
松岡依都美
永川友里
千田美智子

文学座公演 紀伊國屋書店提携

文化庁文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)

新宿フィールドミュージアム

人生はギャンブルなのだ!

異説・野口英世物語

NOGUCHI